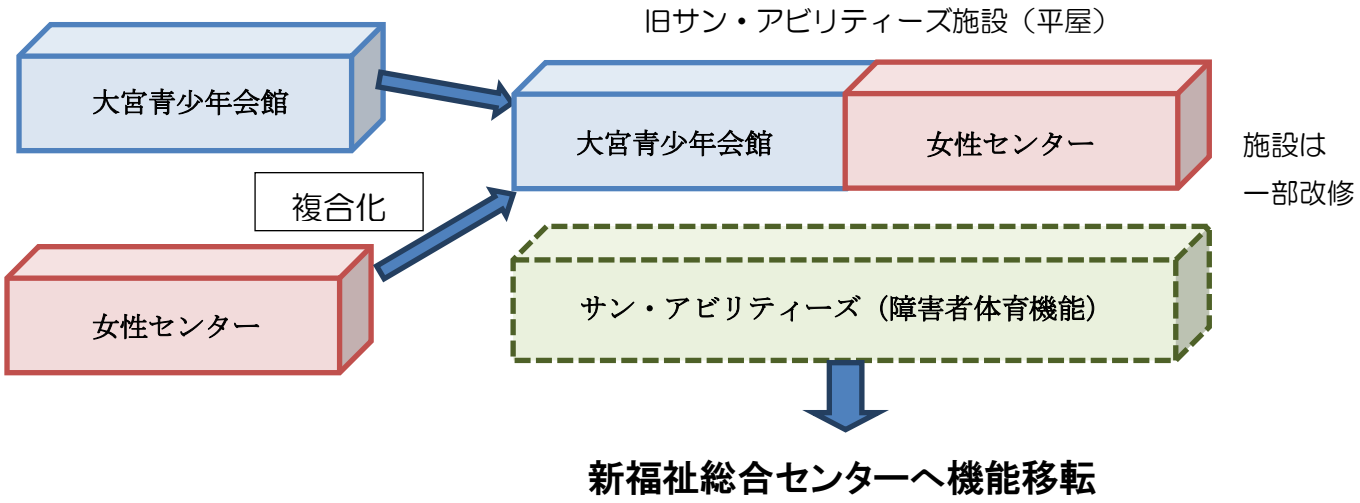
資料 1

モデル的事業の推進について

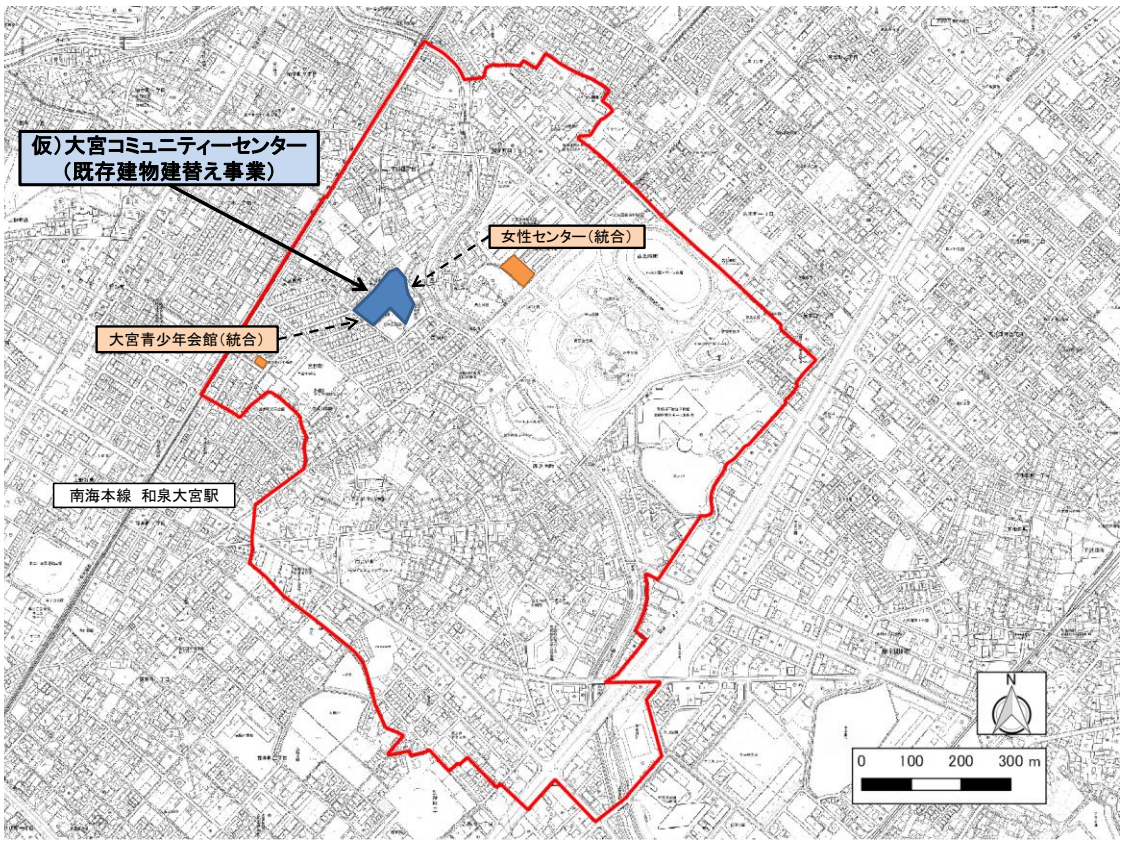
① 機能移転後のサン・アビリティーズ施設の有効活用

1. 事業内容

勤労者・障害者教養文化体育施設（サン・アビリティーズ）を新設する福祉総合センターに移転するとともに、旧サン・アビリティーズの建物を改修し、近接する老朽化した女性センター、大宮青少年会館を移転複合化する。



（配置図）



2. 供用開始時期

平成 30 年度（予定）

3. 複合施設が備える機能

（1）移転前からの機能

・女性センター機能（男女共同参画事業）
・大宮青少年会館機能（公民館事業）

（2）複合化により拡充が期待される機能

・体育館が広いため、スポーツや健康増進に関する機能。
・体育館に空調設備を新たに設置するため、講演会や集会場所としての機能。
・調理室を設置するため、調理実習機能。（災害時に避難所となった場合、調理機能としても有効。）
・平屋建てのバリアフリー機能。
・男女共同参画に関する図書の閲覧コーナー

4. 事業効果

ソフト面では、複合化による双方の事業連携と交流による新たな展開が期待できる。

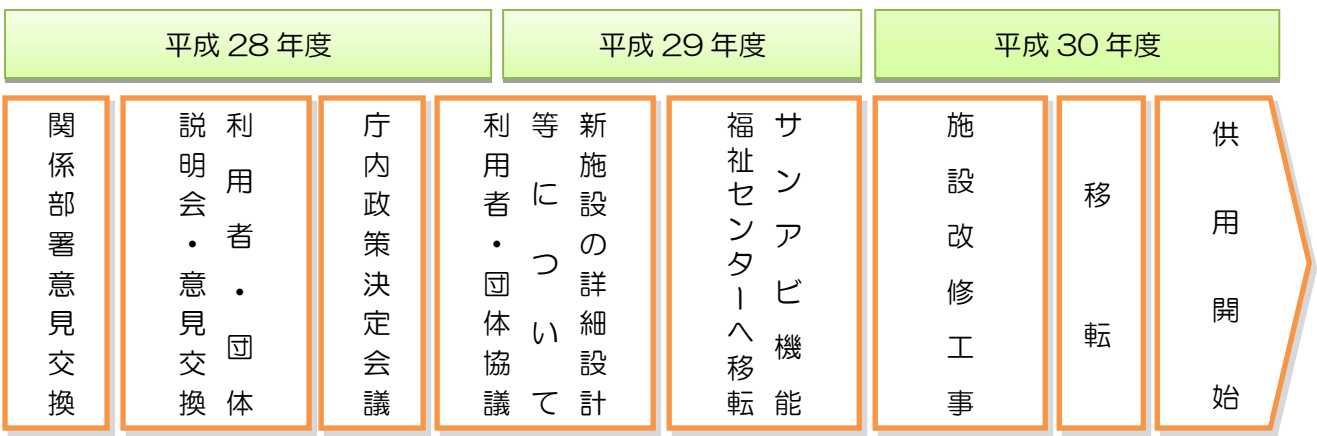
ハード面では、下記のように維持コストの削減が実現する。また、複合化の副次的効果として、２施設の老朽化問題解消と売却収益も見込まれる。

	大宮青少年会館 (A)	女性センター (B)	新複合施設 (C)	効　果 {(A)+(B)} -(C)
50 年間の概算コスト ＊うち建替費用	2 億 3, 900 万円 (1 億 9, 300 万円)	3 億 5, 000 万円 (2 億 9, 800 万円)	2 億 100 万円 (0)	▲ 3 億 8, 800 万円 (▲4 億 9, 100 万円)
延床面積 ＊新福祉センター	428. 64 ㎡ －	686. 11 ㎡ －	1, 635. 21 ㎡ －	520. 46 ㎡ (▲676. 00 ㎡)

注１）大宮青少年会館、女性センターは、それぞれ維持した場合の金額

注２）50 年間の概算コストの内訳は、外壁塗装、屋上防水、受電設備の保全費用と建替費用

5. スケジュール



6. 施設の特徴

男女共同参画事業推進の拠点施設、及び公民館と地域コミュニティ活動施設の機能を備え、部局を跨ぎ（市長部局と教育委員会部局）研修室等を共用する複合施設となる。

7. 管理・運営

管理については、新施設が男女共同参画事業推進のための拠点となることから、貸館機能を含む施設全体の管理を男女共同参画事業の担当である人権・男女共同参画課が行う。

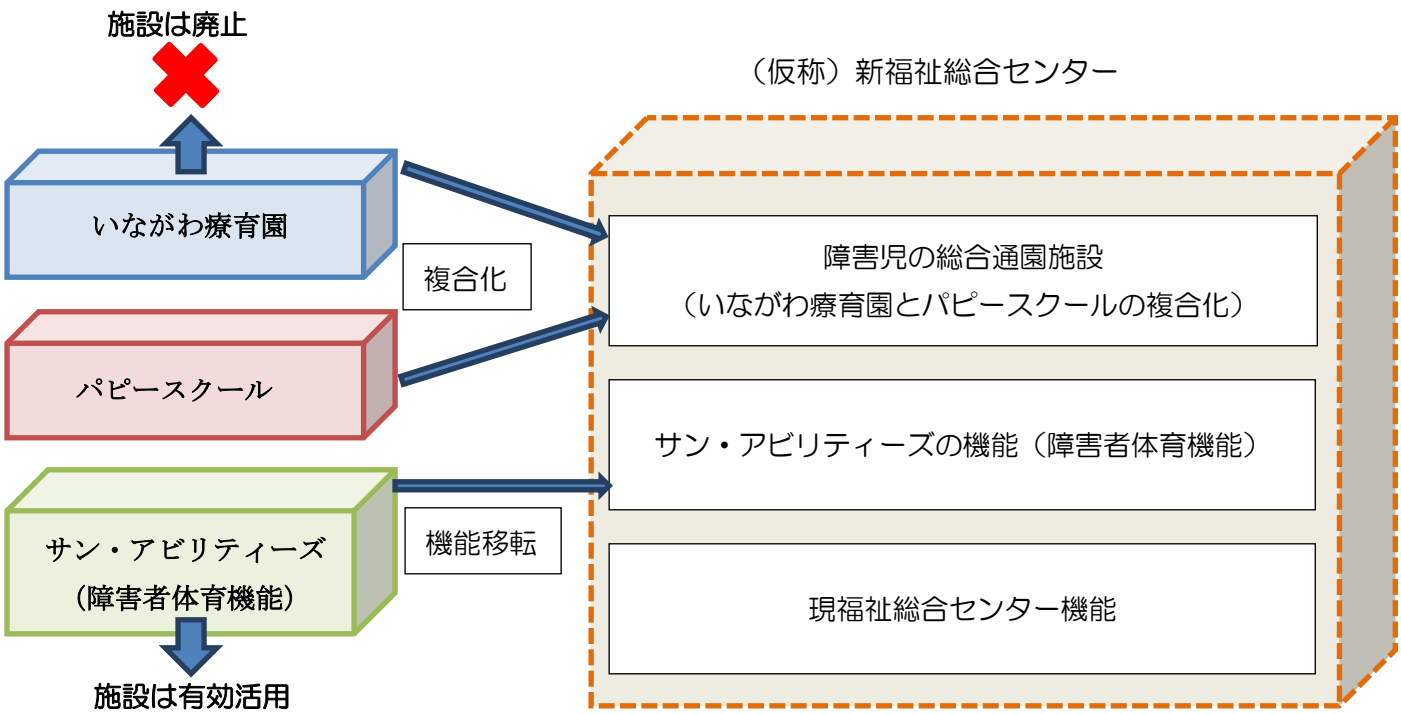
運営については、それぞれが持つ男女共同参画事業、公民館事業は各担当課（人権・男女共同参画課、生涯学習課）が担い、事業区分の明確化を行う。

② 計画におけるモデル事業の推進

福祉総合センターを複合施設化

1. 事業内容

現在の福祉総合センターの著しい老朽化に伴う建て替えを契機に、総合的な福祉の拠点づくりのための福祉分野の中核的施設とするため、現福祉総合センターの機能の更新と知的障害児の通園施設「パピースクール」と肢体不自由児の通園施設「いながわ療育園」を統合し、サン・アビリティーズの機能（障害者体育機能）の移転を含めた（仮称）新福祉総合センターの整備を行う。



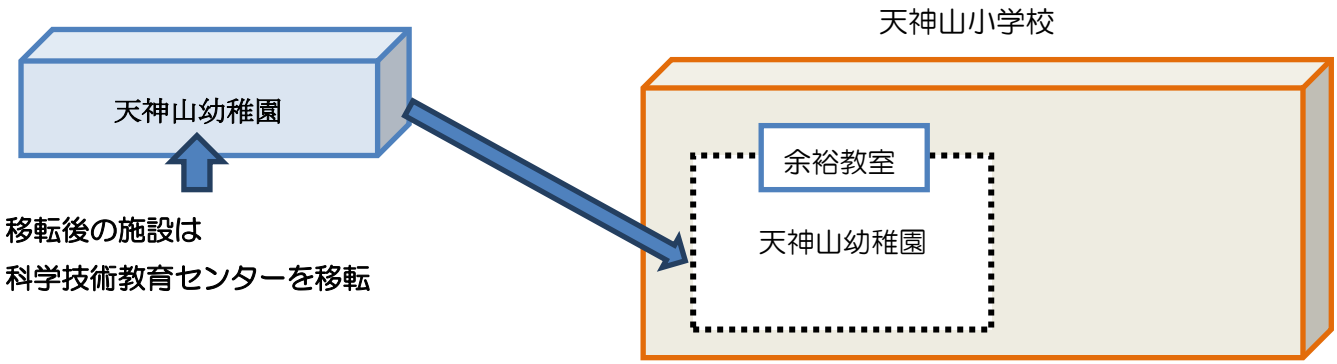
2. 供用開始時期

平成 29 年度（予定）

天神山幼稚園の天神山小学校への複合化と施設活用

1. 事業内容

天神山幼稚園の機能を併設の天神山小学校内の余裕教室へ移転し、あわせて幼稚園移転後の建物については、福祉総合センター内にあった科学技術教育センターを移転し、従来の機能に加えて教育相談機能も付加した新センターとして整備します。



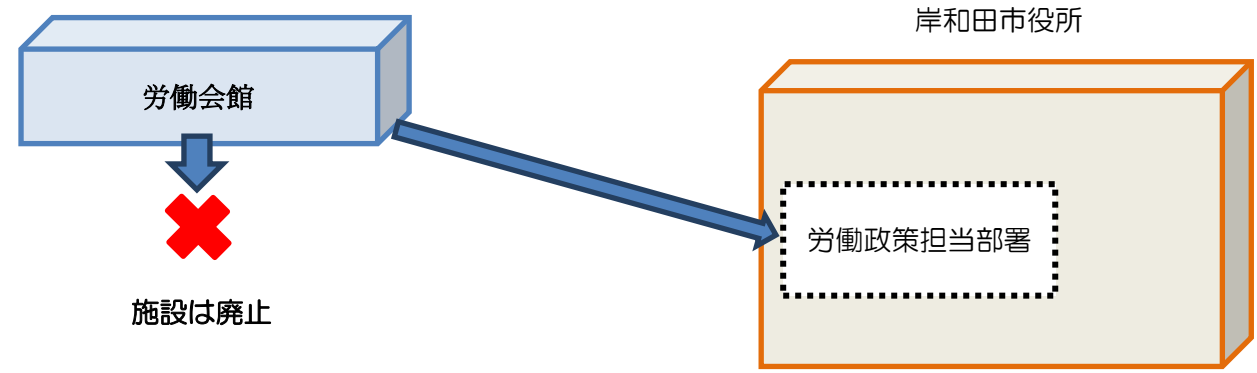
2. 供用開始

平成 28 年度　供用開始済

労働会館の廃止

1. 事業内容

労働会館で労働政策を担当する部署は市役所庁舎に移転し、労働会館を廃止する。



2. 供用開始

平成 28 年度　実施済

委員会での指摘事項・課題一覧と庁内での検討

資料2

※進捗…◎すでに対応している。　○…対応に向け検討開始（一部対応）。　△…長期的ビジョンで検討を進める。

	※進捗	分類	指摘事項・課題	検討策
1	◎	進行管理	計画の中では、総量圧縮・維持管理コスト・保全・受益者負担など書かれており、それらについて各施設所管課で行っている取組みと、行っていない取組みを確認できるようなチェックリストが必要。	進行管理シートの改良により実施する。⇒変更案 Ver.2
2	◎	進行管理	KPI（進行過程の業績評価）として、施設の床面積や維持管理コスト等の数値が経年で分かるようにすること。	
3	◎	進行管理	施設によって、達成・未達成がわかるようにし、26 の種類別施設の進捗状況の順位や進められる事業など順位をつけること。	
4	○	教育	教育委員会の施設について、余裕教室を地域のためにどう使うのか等、より詳細なヒアリングを実施すること。	進捗ヒアリングを実施する。幼稚園のあり方を教育委員会で検討あり。
5	△	教育	学校の余裕教室の活用を教育委員会で担うと、その中だけで考えることがあるので、余裕教室を公共施設マネジメント課の管理の範囲に入れて、利活用の方法を考えること。	事務分掌の整理で資産全般の管理を担う。
6	◎	手段・方法	岸和田市の作成する地図に 15 圏域を載せたり、15 色に色分けしたりなど、圏域の可視化をさせ、公民館の利用者が、15 圏域の中での公民館を意識する環境を整えること。	GIS を活用し、HP で公開する。次期「総合計画」に圏域を記載する。
7	○	手段・方法	学習指導要領に、地域と連携しながら教育を行う「アクティブラーニング」が導入されたので、校長先生たちや子育て世代、それに自分達のやりたいことを対話（ダイアログ）する場の「まちカフェ」などに集まる人たちとネットワークをつくること。	担当部局と連携し、共同で施策を実施する。まちネットや市民懇話会などの場に参加。
8	△	手段・方法	内閣府のプラットフォーム活用等で、市民・NPO・民間企業・施設所管課が連携し、地元でお金が回るような、官民連携のできる仕組みとネットワークを作ること。指定管理や PFI などの方法を検討する際は、市民がサービス提供側として参画できる仕組みが必要。	地域によっては、４者の連携が効果的な場合もあり、実現に向け検証体制を作る。
9	○	手段・方法	各施設所管課の優れた取組みについては、FM 大賞のような岸和田市版の表彰制度を作り、インセンティブを高める仕組みを作ること。特に教育委員会では、余裕教室の活用や教育施設の統合のインセンティブを高めるには、教育環境にとって良い効果が出るような事例を知ることや、教育委員会に所属する建築職に FM の意識付けと合意形成を取っていくこと。	庁内検討委員会や庁内の研修により周知する。庁内検討委員会などで事例を紹介し、認識を共有する。

資料３

岸和田市公共施設最適化計画　進行管理シート　Ver.2（案）

No.	種類	担当課
5	公民館等	生涯学習課

対象施設		
市立公民館・中央地区公民館	葛城上地区公民館	旭地区公民館
春木地区公民館・春木青少年会館	光明地区公民館	八木地区公民館
葛城地区公民館	新条地区公民館	常盤地区公民館
光陽地区公民館	天神山地区公民館	久米田青少年会館
山滝地区公民館	公民館分館	箕土路青少年会館
城北地区公民館	山直地区公民館	大宮青少年会館
大芝地区公民館		

将来計画
社会教育法に規定の公民館の用途制限緩和について検討し、地域コミュニティの活動施設としての位置付け変更とともに、新たに位置付けられる拠点施設に現機能を集約します。また、エリア内の人口密度等を勘案して、なおエリア内に施設が必要な場合においては、拠点施設以外で補完施設としての位置付けが必要かどうかもあわせて検討していきます。

単年度ごとのスケジュール	
平成 28 年度	社会教育法の規定に基づく、公民館等貸館基準について検討を行っている。また、大宮青少年会館の周辺施設との複合化の実現に向け、検討している。
平成 29 年度	社会教育法の規定に基づく、新たな公民館等貸館基準について試行していく。大宮青少年会館の複合化への取り組みを関係課と調整していく。
平成 30 年度	公民館等の新たな貸館基準について取り組んでいく。また、大宮青少年会館の複合化を実施する。

期待する主な効果
・新たな公民館等の貸館基準においては、より幅広い利用者層が期待され、収支改善も図られる。 ・複合化できると、他施設との連携が図られ、相乗効果でより講座の充実が期待できる。

取組状況		
平成 28 年度 削除	~~進捗状況~~ 計画通りに進んでいる	内容 現行の制度においても、公民館等の貸館についての柔軟な考え方は適用できる。また、大宮青少年会館との複合化に向けては、さまざまな利用団体があり、引き続き協議を行っていく。

例えば、大宮青少年会館の複合化を実施する平成３０年度で計算した場合。

成果指標				
幼稚園	平成 27 年度（基準年度）	平成 30 年度	削減量	削減率（%）
施設数	19	19		
総延床面積（㎡）	21,659	21,230	▲429	▲2%
利用者数（人）※	491,129	491,129		
維持管理費（千円）	127,190	124,927	▲2,263	▲2%
施設規模当たりコスト（円/㎡）	95,040	89,761		
1 人当たりコスト（円/人）	4,222	4,069		
（自由に記載）				

種類別施設の中での削減率。

【進捗状況判定表】		0	検討していない	1	検討を始めた
2	課題は多いが取組みを始めている	3	順調に進んでいる	4	概ね達成

中期的な（10 年）取組みの方向性		進捗度
（1）施設は縮小するが、機能は存続して運用		0
対象施設		
いつまで		
（2）施設及び機能ともに縮小して運用		0
対象施設		
いつまで		
（3）施設は縮小し、機能は他の用途に転用		0
対象施設		
いつまで		
（4）施設は処分するが、機能をそのまま他の施設に統合・複合化		4
対象施設	大宮青少年会館	
いつまで	平成 30 年まで	
（5）施設は処分するが、機能を縮小して他の施設に統合・複合化		0
対象施設		
いつまで		

◆重要事項◆

- 『岸和田市公共施設等総合管理計画』に基づく最適化関連起債措置及び社会資本整備総合交付金を申請しているため、計画の着実な実行と進捗管理が求められています。
- 計画の削減目標のために、個別具体的に今後の方向性と実施時期を庁内で連携して決定する必要があります。

岸和田市公共施設最適化計画　進行管理シート Ver.2（案）

No.	種類	担当課
21	女性センター	人権推進課
対象施設		
女性センター		

将来計画	
事業の効果的な推進を目指し、他施設との連携を図るため、周辺施設と複合化を検討します。	
単年度ごとのスケジュール	
平成 28 年度	男女共同参画事業のさらなる推進と、施設の老朽化を解決させるための方策を検討する。
平成 29 年度	方策を実現させるため、課題解決について関係部署、利用者等との協議を継続する。
平成 30 年度	課題の抽出や事業の取組推進についての検討を踏まえ、実施する。
期待する主な効果	
・他施設との機能連携により、男女共同参画事業の推進と強化が図れる。 ・施設の老朽化が進んでいることから、他施設への機能移転により施設強度が確保できる。	

取組状況		
平成 28 年度	進捗状況	内容
	計画通りに進んでいる	機能移転後のサン・アビリティーズを再整備し、女性センターの持つ機能をすべて移転する。女性センターの機能は本市で唯一のものであるため、移転後は拠点施設として位置付け、事業推進と強化に向けて体制を整え、ハード面の整備を行う。 方策の実現に向け、関係部署、利用者等と協議を行う。

来年度の取組予定	
平成 29 年度	管理運営について関係部署、利用者等と協議を継続する。

成果指標				
幼稚園	平成 27 年度（基準年度）	平成 30 年度	削減量	削減率（%）
施設数	1	1		
総延床面積（㎡）	686	0	▲686	▲100
利用者数（人）※	23,622	23,622		
維持管理費（千円）	8,450	0	▲8,450	▲100
施設規模当たりコスト（円/㎡）	12,318	0		
1 人当たりコスト（円/人）	358	0		
（自由に記載）				

【進捗状況判定表】		0	検討していない	1	検討を始めた
2	課題は多いが取組みを始めている	3	順調に進んでいる	4	概ね達成

中期的な（10 年）取組みの方向性	進捗度
（1）施設は縮小するが、機能は存続して運用	-
対象施設	なし
いつまで	
（2）施設及び機能ともに縮小して運用	-
対象施設	なし
いつまで	
（3）施設は縮小し、機能は他の用途に転用	-
対象施設	なし
いつまで	
（4）施設は処分するが、機能をそのまま他の施設に統合・複合化	4
対象施設	女性センター
いつまで	平成 30 年まで
（5）施設は処分するが、機能を縮小して他の施設に統合・複合化	-
対象施設	なし
いつまで	

◆重要事項◆

- 『岸和田市公共施設等総合管理計画』に基づく最適化関連起債措置及び社会資本整備総合交付金を申請しているため、計画の着実な実行と進捗管理が求められています。
- 計画の削減目標のために、個別具体的に今後の方向性と実施時期を庁内で連携して決定する必要があります。

資料４

庁内でのフィードバック体制の確立

１．庁内での共有認識

庁内での取組み推進のため、庁内検討委員会を開催した。最適化計画を策定後、改めて庁内での認識を共有し、公共施設マネジメント検討委員会で出された指摘や課題等についてフィードバックした。

２.種類別施設ごとの要旨　・今後の検討事項など

幼稚園について

議論の要旨

●小学校の空き教室に天神山幼稚園を移転したが、ほかの幼稚園はそれぞれの状況を踏まえる必要があり、同様に小学校に移転していくと決めたわけではない。
●幼稚園を小学校へ移転という議論の前に、現在の幼稚園を全て公共が担う必要があるのかという議論がまず必要である。
●教育委員会としても、方向性について議論を進めている。
●市として自己矛盾が起きないように、きっちりと方針を固める必要がある。
●幼稚園の再配置については、教育水準についても触れた方針を決めなければならない。
●東葛城幼稚園は無くなると避難場所が無くなるので、避難する場所として確保しておかなければならない。

～議論された内容から今後の検討事項～

・モデル校のように幼小一貫校を他の幼稚園で進める前に、まず幼稚園を全て公共が担うのかどうかの議論が必要である。
・教育委員会の中で適正規模を考えるが、市長部局としても削減について決め、両輪で進めていく必要がある。
・幼稚園の再配置には避難所・防災拠点としての視点を踏まえる必要がある。
・幼稚園の再配置をするならば、教育水準についても確保できるという内容の方針にする必要がある。

小学校・中学校について

議論の要旨

●空き教室をどうするのか、教育委員会の中で方向性の検討を進めている。
●近い将来、複式学級になる可能性がある学校もある。
●学級数を 12～18 クラスの適正規模の検討を進めていく。
●空き教室をどうするのか、教育委員会の中で方向性の検討をしている。
●過去の人口増加に伴い、従来の葛城中学校の校区を分離し、土生中学校が開校した経緯がある。その他いくつか分化した中学校も人口減少により元の学校に戻るということが考えられる。小学校も同様に考えられるが、小学校は校区の拠点になっているので、その場合は校区の見直しが必要となる。
●空き教室は、どんどん特別教室になっていき、地域で学校を借りたいと言っても貸してもらえなかったりする。
●学校施設の複合化において、子どもの安心・安全をまず考えることは重々承知し伝えているが、それでも各論になるとやはり施設は残して欲しいと言われる。
●地元へ説明に行く前に、統廃合する代わりに少人数制にするか、小中一貫校にするかなど市としての方針を決めなければならない。
●母校は大切にしたいという市民の想いがある。
●学校は子どものためということを忘れてはいけない。

～議論された内容から今後の検討事項～

- 教育委員会の中で適正規模を考えるが、市長部局としても削減について決め、両輪で進めていく必要がある。
- 中学校は分離していた学校を元に戻すということが考えられる。小学校は校区の拠点として存在しているので、小学校の再配置は校区の見直しを考える必要がある。
- 地元説明に入る前に、教育委員会と市長部局の両輪で方針をまとめる必要がある。

生涯学習施設について

議論の要旨

●旧サンアビに大宮青少年会館の機能を移転することについては、利用者にとってメリットもあったので進められたと考える。そういったメリットがないとその他の複合化や統廃合は難しい。
●公民館の機能について改めて考える必要がある。
●プール全体が老朽化しているので、対策が必要である。
●城北地区公民館や春木市民センターについて、周辺施設との複合化など再配置について検討できる。
●他市では公民館をコミュニティセンター化しているところも多い。

～議論された内容から今後の検討事項～

・老朽化の進むプールは、交通面の対策が必要だが、いくつかのプールを集約して温水プールに建て替えるといった検討ができる。
・公民館の機能について、改めて検証する必要がある。利用者の高齢化が進んでいるので、もっと世代を超えて来られるような利用スタイルの見直しが必要。
・老朽化している城北地区公民館は、早急な対策が必要。周辺施設と合わせて建て替え等の検討ができる。
・春木市民センターについて、賃借料の負担と分館としての機能のあり方について検証が必要。